

請 願 文 書 表

(令和7年9月2日)

受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名	請願第8号（7. 9. 2） 核兵器禁止条約への署名・批准を要請する意見書提出を求める請願
請 願 の 要 旨	日本原水爆被害者団体協議会は、長年の運動が評価され、2024年12月10日にノーベル平和賞を受賞した。「生きている間に、この地球から核をなくしたい」という執念で声を上げ続けてきた原爆被害者は、この受賞を心から喜んでいる。 授賞式で、被爆者であるサーロー節子さんは、被爆した際の経験を語り、核兵器の恐ろしさと核兵器禁止条約の重要性を訴え、政府が早期に署名・批准するよう、市民の粘り強い行動を求めた。しかし、現在の国際情勢は、核兵器使用の危険と抑止力への依存が高まるなど、危機的な状況にある。 核兵器禁止条約は、2017年7月7日に採択され、2021年1月22日に発効し、2024年9月24日時点で94か国が署名し、73か国が批准している。しかし、唯一の被爆国である日本は、いまだに署名にすら応じていない。本来ならば、先頭に立って、各国へ核兵器禁止条約への批准を求めるべきである。 2024年7月11日時点で、全国の地方議会の41%に当たる726議会が、政府に対し、核兵器禁止条約への署名・批准等を求めている。兵庫県下では、明石市議会、芦屋市議会、尼崎市議会など13議会が参加している。神戸市会としても、早期に核兵器禁止条約への署名・批准を求める意見書を政府に提出するよう請願する。
請 願 者 の 住 所 及 び 氏 名	神戸市灘区 神戸市原爆被害者の会 会長 立 川 重 則
紹 介 議 員 の 氏 名	(代表) あわはら 富夫 味口 としゆき
付 託 委 員 会	総務財政委員会